



蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 25

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚
財田中央公民館
昭和42(1967)年ごろ
財田町

昭和40(1965)年に県立笠田高等学校財田分校が閉校となる。その施設を改造して、昭和41(1966)年に財田村中央公民館が開館する。ここには、青年研修室・調理実習室・会議室・ホール・図書館などが整備された。昭和57(1982)年に財田町農業総合会館が建設され、平成14・15(2002・03)年に財田町農業総合会館の改修工事を行い、現在の財田町公民館となる。

「思い出の1ページ」

この建物が笠田高校財田分校だったところに、定時制に通っていた高橋利昭さん(80)に当時の振り返ってもらいました。

「当時の定時制というのは、1日おきて、間の1日は、家の農業を手伝っていました。わたしは10人兄弟の中ほどで、うちは小作農だったため、山の中の棚田にある1ヘクタールの田んぼで米を作っていました。田植えは牛で代掻きをして、家族総出で、苗を手で植えています。2カ月くらいかかっています。今なら機械で2〜3日でできてしまうところ。進歩はすさまじいですね。家計を支えるために、トマトを作って、学校から帰ったら懐中電灯を持ってちぎり、それを翌日の朝5〜6時に自転車で琴平や多度津の市場に売りに持って行ってました。家も自分たちで建てましたよ。満州から帰ってきた親戚の分と2軒分の家を作るため、自分の山から木を切ってきて、それを大八車に乗せ、牛に引かせて製材所を持って行き、またそれを家まで持って帰る。舗装もされていない道路でしたから一苦労。木を準備するだけでも2

年かかりました。壁も、兄と土を練ってつけたことを思い出します。のちにその製材所に縁あって夫婦養子となりました。貧しさの中で培った忍耐は、社会人になっても生かされ、自分の財産となっているような気がしています。」



新 年明けましておめでとうございませう。

市の花“マーガレット”を使ったご当地ナンバープレートのデザインが決まりました。三豊の魅力が凝縮されていますよね。ナンバープレートの大きさは、わずか縦10cm×横20cm。その中に、三豊を思い、県内外から107点もの応募をいただいたことは、とてもうれしい驚きでした。三豊の魅力を載せたバイクが市内外を走る日が、今から楽しみです。

広報みとよは、今年も引き続き「市民力」をテーマに、三豊を輝かせてくれる皆さんをどんどん取材していきます。本年もよろしくお願ひします。